

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すりーはあと		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 18日		令和7年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46人	(回答者数) 38人
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 18日		令和7年 4月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	出来る限り、外に出て身体を動かす活動をしていること。	<ul style="list-style-type: none"> 公園に向かう道中では、歩道の歩き方・横断歩道の渡り方などのルールを伝える努力をしている。公園内では、遊具を使用するときに気をつけること・順番を守り仲良く活動すること・公園に来ている一般のお友だちとの関わり方などを練習している。 職員も子どもたちと一緒に楽しく運動することでスムーズな信頼関係の構築に繋がっていると感じる。 外では季節により景色が変化するので、気分転換をしながら自然を学んでいる。 活動時間が多く取れる日は普段とは違う公園に出向き、お弁当やおやつを外で食べることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の種類を増やしたい。現在は、野球・サッカー・縄跳び・大縄跳び・フリスビー・しっぽとりや電車ごっこ用の縄と砂場セットを準備して公園に行っている。球技が好きな子が多いが、ボールの使用禁止の公園も多いので代わりにできることや子どもたちが興味を持ちそうなことを増やしていきたい。
2	夏はプール活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> 暑い時期も思いきり身体が動かせるよう、公営の大きいプールに行っている。水が苦手な子や大きいプールに入れない子も事業所裏にビニールプールを設置して活動している。 目標を設定して、少しずつ水に慣れていけるように楽しく練習・フォローしている。 	<ul style="list-style-type: none"> プールに入ることができない子の室内活動を充実させたい。
3	おやつが選べる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のおやつは複数種類を準備しているので、その中で好きな物を選んだり新しい物にチャレンジできる。 子ども達が自分の好みを知る機会になっていると思う。 おやつ前の手洗いや順番を待つことを学びの時間にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギーや苦手な物の把握と配慮を継続する。 金額の範囲内ではあるが、内容が固定化しないように意識する。 今後もチャレンジの心を育てる機会に繋げていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	天候不良時の活動が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 季節行事の制作や室内でも身体を動かす活動を考えて実施しているが、参加をすることが難しい子がいるため活動に偏りができてしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> できることややりたいことを選択できるように、活動の種類を増やしたい。 少しでも参加にチャレンジできるような関わりをもっていきたい。
2	イベント活動が少なくなった。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍はお出かけイベントができなかった。 職員や利用児童を含む状況の変化で、以前のようにイベントを企画できずにいるのが現状。 暑い時期が長くなり、出かける時のリスクが高いのも要因である。 ハロウィン・クリスマス・たこあげ・夏のプールが恒例となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から、子どもたちの興味やイベント情報に意識し、事業所全体で立案企画する環境にしたい。
3	平日の活動が固定化している。	<ul style="list-style-type: none"> 下校後の活動時間内で行ける公園に限られている。 当事業所では、大きなカリキュラムを組んでいないため、それぞれで好きな活動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動範囲は大きく変えられないため、その中でできる活動内容を子どもたちに提案していき一緒に楽しみたい。 自分の時間が楽しめる居場所と感じている子もいるため、その気持ちに配慮して関わっていく。